

A woman with long brown hair, wearing a black hooded jacket and a red and black striped shirt, is laughing joyfully. She is in a snowy landscape with evergreen trees in the background. The word "hunter" is written in a white, cursive font across the middle of the image.

# hunter

AI・HALL 自主企画、AI・HALL+小原延之 共同製作  
作・演出=小原延之

2008年2月29日(金)~3月3日(月)  
アイホール

AI・HALL 自主企画 AI・HALL+小原延之 共同製作  
作・演出=小原延之

# hunter

「次は何を書きますか？」という次作を心配するかのようなお言葉をいただき、こそばゆい思いをしました。劇作家・演出家という立場で商売をしている身としては、具体的でないにしても、ハタタリで物語のストックはいくつか持っています。ただし、何故、その話をこの機会に上演しなければいけないのかということ突き詰めると話は別です。私の感じる限り、社会の空気はとて緩く、自由で縛りのないものではありませんが、不意に突風に吹かれれば、私たちは砂粒のように吹き飛ばされ、それぞれの立場を見失ってしまうような気がしてなりません。もし風が吹いても一方的な風でないことを願う限りです。

停滞する政治状況の中で、社会に向き合いながら、生きていく限り避けることの出来ない「暴力」をテーマとした作品を上演しようと、半年前に思い立ちました。今回の作品は、決してそうなつてはしくない、銃にまつわる日本の風景です。

ところが、話を進めると、ここ数ヶ月で頻繁に起きてしまった事件の影響で、銃規制の問題、共同体のありかた、アメリカ化する日本(いま始まった話やないやろ)といった話題が各メディアに於いて事欠かなくなりました。これは、私の先見性を自慢しているわけではありません。そんなことはどうでもよくて、どちらかというとうんざりしています。取りも直さず「hunter」を、今、上演しなければならない作品にする次第です。

出演

平林之英(sunday)・後藤七重・藤島淳一(劇団アルファー)・長沼久美子  
小笠原聡・橋本達也・樋上真郁(桃園会)  
村井千恵・韓寿恵(劇団 太陽族)・山口晶子  
国木田かつば

日時=2008年2月29日(金)~3月3日(月)

2/29 3/1 2 3  
(金) (土) (日) (月)  
14:00  
19:00

※受付開始は開演40分前、開場は20分前 ※未就学児童の入場はご遠慮ください。

会場=アイホール (JR伊丹駅前)  
〒664-0846 兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 TEL072-782-2000  
<http://www6.ocn.ne.jp/~aihall/>



料金=一般前売/2,500円 当日/3,000円  
学生&ユース(25才以下)前売/1,800円 当日/2,300円  
(学生証か年齢を証明するものを提示・アイホールでのみ取扱い)  
(日時指定・整理番号付自由席)

チケット取扱いは電子チケットぴあ/0570-02-9999(Pコード:384-040)  
アイホール/072-782-2000

お問い合わせ=アイホール072-782-2000 aihall@juno.ocn.ne.jp

## STAFF

舞台監督=久保克司(スタッフステーション)  
舞台監督助手=佐々木智史  
舞台美術=池田ともゆき(TANCI 池田意匠事務所)  
舞台美術補=喜多理絵  
音響=増田郁子(スタッフステーション)  
照明=葛西健一(GEKKEN staffroom)  
宣伝美術=東學(188)  
宣伝写真=山田徳春(office500G)

協力=劇団アルファー、Sunday、劇団 太陽族、桃園会、株式会社リコモーション

主催=伊丹市・(財)伊丹市文化振興財団

企画製作=アイホール

平成19年度文化庁芸術拠点形成事業



小原延之

こはらのぶゆき  
1968年、福井県生まれ。  
1988年、関西の老舗劇団、そとばこまちに入団。  
1991年に演出家デビュー。2001年、7代目座長に就任、同時に戯曲を執筆するようになる。  
2005年「丈夫な教室」(第12回OMS戯曲賞最終候補)の上演を期に退団し、以後フリーとして活動。  
2007年AI・HALL+小原延之共同製作第一弾として「nine」を上演し、好評を博す。